

森を探索するコンパスのプログラムで対話する参加者=2021年8月、北海道美瑛町（清水エリさん撮影）



試験も成績もなく、幅広い年代の大人から「人生の学校」。北欧デンマークの教育機関「フォルケホイスコーレ」をモデルにしたのが世界中に広がっている。日本では北海道東川町で2020年に開校した「Comp（コンパス）」が、就職活動前の学生や一時に仕事から離れる「キャリアブレイク」中若者らから、自己を見詰め直す場として支持を集めている。

自分を見詰める 人生の学校

対話を重視

Comp path（北海道東川町）

「自己と社会の探究」「現代アートの冒険」。コンパスでは1〜10週間のコースを設け、さまざまな授業を展開している。地元ネイチャーガイドや木工職人らが講師となって山歩きや作品制作をするなど実践型のプログラムに加え、運営者と共に「民主主義とは何か」を議論する授業も。参加者は校舎に宿泊して共同生活するため、授業外でも対話が広がる環境に身を置く。

コンパスを立ち上げたのは安井早紀さん(34)と遠又香さん(34)。友人の二人はデンマークで多様な背景を持つ人々が自由闊達に学ぶ様子を目にし、「忙しい日本社会の中でも立ち止まって考える場所が必要だと感じた(安井さん)と創設のきっかけを語る。

参加費は1週間コースで約14万円。何か新しいことをしたい「価値観を広げたい」という思いを持った10〜60代が集まり、これまでに約300人が卒業した。「本当に大事にしたいことが分かった」との声も寄せられ、参加者自身の学びにつながっている。

27カ国が実践

19世紀に貧しい人々の教育の場

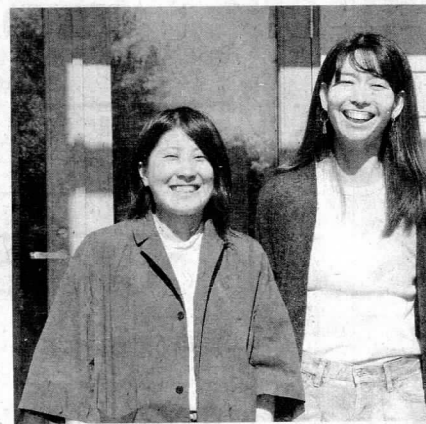
デンマークの教育機関 世界に拡大

フォルケホイスコーレ / folkehøjskole

として生まれたフォルケホイスコーレだが、対話を重視して民主主義的な思考を育む教育方針に共感が集まり、近年、世界中に広がりを見せる。デンマークのフォルケホイスコーレ協会が19年に初開催した国際会議には、北欧諸国に加えタンザニアやインドなど27カ国から実践者が参加した。

日本での普及を目指す一般社団法人IFASによると、国内でも十数団体が活動。デンマークで学ぶ日本人留学生も昨年、約300人に上った。

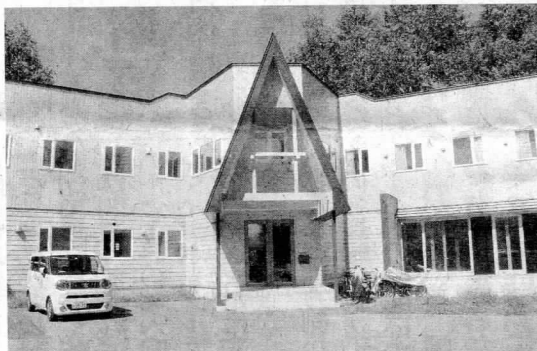
研究者の東洋大の矢野拓洋助教によれば、世界的には発展途上国で貧困層へのアプローチとして増えているが、日本では20〜30代の関心が高い。転職が当たり前とな



った社会状況から「将来のキャリアプランについて考える時間をりたい人の選択肢となっている」と分析する。

安井さんは「他者との対話は分をより深く知ることにつながる」と強調。コンパスでの学び「個人を豊かにし、それが日本社会の変革につながればいい」とを込めた。(時事)

コンパスの又=8



使われていなくなった建物を改修し、今年4月に完成したコンパスの校舎



「ユニウスワード」デンマークの成人教育機関。神者ケルトヴィイが貧しい農民に教育の場を提供しようと構想し、144年、初の学校が創設された。同国内には約70校ある。入学は原則17歳以上で年齢上限はない。試験や成績評価はなく、出席の証明として卒業証書が授与される。全寮制で通常の滞在期間は4カ月。政府の認可を受けたフォルケホイスコーレに

う学生は留学生も含め、助成を受けられる。